

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：22604  
 研究種目：基盤研究(C)（一般）  
 研究期間：2017～2019  
 課題番号：17K01907  
 研究課題名（和文）シングルマザーの産前産後の支援：ファミリーパートナーシップモデルによる支援の評価

研究課題名（英文）Support for single mothers from prenatal to postnatal period: Evaluation of support by Family Partnership Model

研究代表者  
 木村 千里（Kimura, Chisato）  
 首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授

研究者番号：60520765

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：親への移行期のシングル・マザーの経験と支援ニーズを特定し、妊娠～育児期のシングル・マザーにファミリーパートナーシップモデル（以下、FPM）による支援を提供し、ケーススタディにより評価した。  
 シングル・マザーのwell-beingに影響する3つの要因とFPMなど確立し組織化されたプログラムにより認定された育児支援の必要性を含む4つの支援ニーズが特定された。FPMへのシングル・マザーの肯定的な評価は、シングル・マザーへのFPMの適用が実行可能であり、実践的であることを示唆している。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

後ろ向きデザイン・質的アプローチにより明らかにされた妊娠～育児期のシングル・マザーの経験やwell-beingに影響する要因をもとに、支援時期や頻度を考慮してFPMによる支援プログラムを適用できるようになる。また、明らかとなった妊娠～育児期の経験やwell-beingに影響する要因からシングル・マザー独自の支援ニーズが特定され、プロモショナルガイドによる支援を補強できる基礎資料となる。さらに、研究結果はシングル・マザーなど特別な配慮を要する事例へのFPMによる支援に関するアップデートされたエビデンスとして、現任教育や実践に適用できる。

研究成果の概要（英文）： We identified the care needs and the experiences of single mothers from prenatal to postnatal period, and applied the Family Partnership Model (FPM) to provide support, and evaluate case studies for viability.

We clarified three factors which affect well-being, and four care needs, including child care support certified by an established and organized program such as FPM. Positive feedback about FPM from single mothers suggested that such a program is both feasible and practical.

研究分野：医歯薬・母性看護学・家族看護学

キーワード：シングルマザー 産前 産後 ファミリーパートナーシップモデル 支援

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2015年の日本のシングル・マザーは、2005年以降3倍に急増している未婚のシングル・マザーを包含しつつ1,062,702人と僅かに減少している。未婚者では年齢が低い傾向にあり、他の世帯員と同居している割合が高く、正規雇用あるいは非正規雇用で働かざるを得ない状況にある。多くが予期せぬ妊娠、子どもの父親との関係不全や関係性を終結させた経験、原家族との関係性の不十分さを併存しており、特に妊娠期～育成期早期には身体・心理・社会経済的困難からwell-beingの低下や子どもの発達に対する影響が懸念される。そのため、子育て世代包括支援において妊娠期から切れ目のない支援を提供すべき特定妊婦に包含されている。

欧州ではファミリーパートナーシップモデル (Family Partnership Model、以下、FPM) による支援プログラムが確立されており、英国をはじめとしてトレーニングを受けた看護職や他の母子・家族支援専門職がシングル・マザーなど子育てに何らかの問題が予測される母親も含めて全ての家族の支援に適用している。このモデルによる母子支援プログラムは児の早期発達や母親、父親の親への移行を促し、専門職と親とが妊娠期や産後早期の家族のニーズを共有しながら対処を決定することを促進する構造的で柔軟なアプローチである。つまり、支援専門職は親や子どもの特性やニーズを探索・理解し、親や養育者とともに目標を設定し、戦略(計画)を立案し、親と支援者とで親の取り組みを振り返りながら継続的に支援することで、親への移行の準備性を高めていく。心のこもった傾聴、共感ある理解、強みや心配事の共有、優先事項や目標の計画、方法と行動プランの提示などのスキルと資質が求められ<sup>1)</sup>、日本では2015年より研究分担者をはじめ、数名の認定ファシリテータが母子の支援に産前産後のプロモーションガイド<sup>2),3)</sup>を適用している。

### 2. 研究の目的

下記の2点を目的とした。

- (1) 妊娠～育児早期のシングル・マザーの経験を探求し、親への移行に肯定的・否定的に影響した要因、支援ニーズを明確化すること。
- (2) シングル・マザーにFPMによる支援を提供し、ケーススタディにより質的に評価すること。

### 3. 研究の方法

- (1) 研究デザイン：探索的記述的デザイン

- (2) 研究の時期

ニーズアセスメント(後ろ向きデザイン)：2018年3月～5月

ケーススタディ(前向きデザイン)：2019年10月～2020年2月

- (3) 研究の場所

ニーズアセスメント(後ろ向きデザイン)：首都圏のシングル・マザー支援機関

ケーススタディ(前向きデザイン)：関西圏の総合病院 産科外来

- (4) 研究対象者

ニーズアセスメント(後ろ向きデザイン)：妊娠・出産・育児の経験があるシングル・マザー10名

ケーススタディ(前向きデザイン)：妊娠中期のシングル・マザー2名(産後12週まで追跡)

- (5) データ収集方法

ニーズアセスメント(後ろ向きデザイン)：シングル・マザー10名を2グループに分けて各々に2回のフォーカスグループインタビューを実施した。

ケーススタディ(前向きデザイン)：シングル・マザー2名に対して妊娠中期～妊娠後期、産後2週頃、産後4～6週頃にFPMによる支援を提供し、参加観察と半構成的インタビューを実施。また、各時期と産後12週で質問紙調査を実施した。

- (6) 調査内容

ニーズアセスメント(後ろ向きデザイン)：家庭生活、就労、母体や胎児の経過と工夫などの妊娠期の生活、出産体験、就労や健診、健康生活のための工夫など産後の育児期の生活、新生児(乳児)との関係性、家族等からのソーシャルサポート、不足した支援

ケーススタディ(前向きデザイン)：事例の背景、妊娠～経過、新生児経過、ソーシャルサポート、主観的幸福感、抑うつ尺度、子どもへの愛着、育児ストレス、FPMによる支援プログラムの評価、気になることや聞いておきたいことなどの半構成的インタビュー、参加観察によるノートやメモ

- (7) 分析方法

Schreier (2012)<sup>4)</sup>が記述した方法を参考にして質的内容分析を行った。

- (8) 倫理的配慮

研究代表者の所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号18008)。自由意思による参加を決定する権利、不利益を被ることなく参加を取りやめる権利、研究対象者が記録を入手する権利、他者がその記録を入手できないように保護される権利、研究対象者を匿名とし、収集されたデータ守秘の権利を保証した。また、予測される不快な状況や有害事象とそれらへの対応については予め説明した。

### 4. 研究成果

(1) ニーズアセスメントの結果

妊娠前の状況：前提として 家族の関係性の困難 を経験している事例が一定数認められた。

妊娠期： 多様な妊娠の経緯と意思 を経て妊娠期に突入し、 周囲との関係性の葛藤や否定、 サポートネットワーク利用の制約、 妊娠出産育児の情報収集の制約、 身体的経過におけるハイリスク状況や困難、 メンタルの悪化、 経済的困窮 などの否定的経験に対して、 出産に向けて前に進もうとする行動 などの強みも認められた。

出産：自然経膈分娩、帝王切開、早期産など 身体的経過の多様性、 パートナー立ち合い 出産あるいはパートナーがいても感動のない形式的出産など 心理社会的状況の多様性を認めた。

育児期： 心理的葛藤、 身体的変化や疲労、 パートナーとの関係性の困難、 社会経済的問題、 社会的偏見、 サポートネットワークから外れること に直面したが、 児の成長を保证する母性行動、 前に進もうとする行動、 自分に可能なソーシャルサポートの活用、 自主独往と育児から得た肯定感 などの強みも認めた。

(2) 前向きデザインによるケーススタディの結果

2 事例の分析から、シングル・マザーの well-being に影響する要因は【母親の精神状態の安定化】【子どもの健康と成長発達】【重要他者からのソーシャルサポート】であることが推察された。また、2 つの事例の FPM による支援プログラムに対する評価は、「その時期に応じたトピックを自分で選べて否定されない雰囲気になんか安心できた」、「一つのトピックに含まれる個人の状況は幅広いが的確に方向づけてくれた」、「自分の家族の状況やサポートを冷静に振り返る機会になる」、「面談時期や回数は適切であった」など肯定的評価を示した。

(3) ニーズアセスメントから得た結果とケーススタディの結果の統合

周産期のシングル・マザーに特に必要とされる支援は、「シングル・マザーのニーズにセンシティブな情報提供」、「妊娠期から他のシングル・マザーとつながる場」、「公的支援や経済的支援の拡充」、「シングル・マザーに対応できる熟達した育児支援者」であることが示された。

(4) 実践や今後の研究への示唆

親への移行期にあるシングル・マザーについては、妊娠前からの家族関係や親への移行に影響する家族の影響を正確にアセスメントし、ケースの強みを強化・促進すると同時に早期(妊娠期)からのコミュニティや家族におけるソーシャルサポートの構築・調整・強化が必要である。また、FPM による支援は育児支援者が習得するスキルとして適切であると考えられ、FPM によるガイダンスを遵守すると同時にニーズアセスメントから得られた結果を支援の時期や回数の工夫、女性や家族との目標設定や行動プランニングに活用できる可能性があることが示唆された。今後は事例数を増やし、コミュニティでのアウトリーチによる支援に FPM を適用し効果を検証することが求められる。

< 引用文献 >

- 1) Day, C., Morton, A., Ibbeson, A., Maddison, S., Pease, R., & Smith, K. (2014). Antenatal/Postnatal Promotional Guide: Evidence-based intervention. *Journal of Health Visiting*, 2(12), 660-671.
- 2) Day, C. (2015). 産後プロモーションガイド：ガイダンスノート(日本語版), 三国久美 訳, 廣瀬たい子発行, 東京, London: Centre for Parent and Child Support Centre for Parent and Child Support (CPCS), South London & Maudsley NHS Foundation Trust.
- 3) Day, C. (2015b). 産前プロモーションガイド：ガイダンスノート(日本語版), 大久保功子, 塩野悦子 訳, 廣瀬たい子発行, 東京, London: Centre for Parent and Child Support Centre for Parent and Child Support (CPCS), South London & Maudsley NHS Foundation Trust.
- 4) Schreier, M. (2012). *Qualitative Content Analysis in Practice*, Los Angeles : SAGE Publications.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Kimura C, Sonobe M, Endo Y, Ikeda M, Usui M, Takasu J, Okamoto M, Hirose T.
2. 発表標題 Feasibility study of a support program for mothers and children using Postnatal Promotional Huide (PPG) based home visits: Analysis of qualitative data on program evaluations by mothers and midwives,
3. 学会等名 The 13th International Family Nursing Conference 2017 June 14, Pamplona. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sonobe M, Kimura C, Endo Y, Ikeda M, Usui M, Takasu J, Okamoto M, Hirose T.
2. 発表標題 Evaluation of a Home-visit Mother/Child Support Program Using the Postnatal Promotional Guide,
3. 学会等名 The 13th International Family Nursing Conference 2017 June 14, Pamplona. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kimura C, Sonobe M, Ikeda M, Omori T, Nakaizumi R
2. 発表標題 Falling through the cracks: Insufficiencies in care and support for single mothers in Japan
3. 学会等名 The 5th International Conference on Advancing the Life Sciences and Public Health Awareness, Hiroshima, Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村千里, 池田真弓, 園部真美
2. 発表標題 シングルマザーの妊娠期～育児期の体験：親への移行に影響する要因の検討
3. 学会等名 日本家族看護学会第26回学術集会, 京都
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 真弓  (IKEDA MAYUMI)  (50583001)	帝京大学・助産学専攻科・講師   (32643)	
研究分担者	園部 真美  (MAMI SONOBE)  (70347821)	首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授   (22604)	
研究分担者	大森 貴秀  (TAKAHIDE OMORI)  (60276392)	慶應義塾大学・文学部(三田)・助教   (32612)	
研究協力者	峰 博子  (MINE HIROKO)  (60450235)	大阪市総合医療センター・その他部局等・母性看護専門看護師   (84427)	